令和４年度間　自己評価公表シート

白 菊 幼 稚 園

１．本園の教育目標

・心　ゆたかに
・心　やさしく
・心　たくましく
本園では上記の３つの目標を教育目標とし、人格形成にとって最も大切な幼児期に、よりよい経験をより多く、ゆとりある心温かな保育を行い、未熟で純粋な子どもたちを根気よく、我慢強く見守り、立派な社会人として誰からも愛され、慕われ、信頼される人となるように、保護者の方々とともに、幼児教育を日々実践して参ります。

２．本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り教育の質を高めていき、
保護者の要望を把握、確認することで家庭と幼稚園との絆を深め、幼稚園が今後担う役割について
知識を養い、深めていく。又、コロナ禍の中での行事や保育の取り組みについて適宜適切に対応する。

３．評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
「保育の在り方、園児への対応」 健康と安全への配慮	朝の登園時の視診を大切にし、園児の体調の良し悪しを確かめるよう努めた。又、けがや事故に気を付け園内に危険がないか配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について園児と一緒に考えるよう努めた。 大阪市交通安全協会による、園児向け交通安全教室を開き交通ルールを守る大切さを学んだ。 歯科衛生士さんによる歯みがき教室を開き、健康安全にも配慮するよう努めた。
「保育の計画性、教育の内容」 指導計画の作成、研修と研究	指導計画作成にあたり、園児の発達に即して幼児期に適した生活を展開できるよう具体的に作成し、又、周囲の状況の変化にも対応できるよう順応性のあるものとした。 教育内容の質の向上や改善のため、保育者としての専門性に関する研修研究、今日的課題に関する研修研究に積極的に参加するよう努めた。
「家庭との連携、保護者対応」 情報の発信と受信	保育参観、クラス懇談会、園行事、園たより等を通して、園に関する様々な情報の提供に努め、園行事の後には保護者と園との反省会（意見交換会）を開き、園の考え方を示し理解を求め、改善すべきものは改善するように取り組みつつある。

４．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

個々の教職員が取り組むべき課題や目標を持ち、全教職員がそれを理解　認識しながら自己評価し取り組状況を話し合うことを通して、幼稚園の教育方針や課題を明確にすることができ、内容のある教育活動を実践することができた。

５．今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	個々の園児に対応した指導計画や支援計画を作成し、当該園児の保護者とも連携をはかり、必要に応じて専門関係機関と連絡をとり、園内において教職員全体での支援整備を進める。
安全管理	新型コロナウイルス感染予防に加え、従来の感染症につても正しい情報の取得や発信を心掛けていき、予防対策や意識づけを再確認し、準備を怠らないように努める。
子育て支援・預かり保育	子育て支援活動や地域開放等について具体的な形や内容の情報提供を実践する。（未就園児親子教室、園庭開放等） 預かり保育の充実に努め、受け入れ体制を整える。
情報提供・学校評価	指導計画を振り返り、評価　反省を行い、園行事等を通して保護者への情報提供の徹底を図り又、一般の方々が利用できるホームページの内容の充実に努める。

６．学校関係者の評価

白菊幼稚園は園長をはじめ教職員一同が、教育理念・教育目標を踏まえ保育方針を共通理解することで幼児教育の豊かな実践に取り組んでおられる。
幼稚園内での取り組みについては、健康面では歯科衛生士さんを招いての指導、通常保育に加え運動面で特別講師を招いての体操やサッカー授業を行う等積極的に活動している。
安全面については所轄警察による交通安全教室を行い、模擬体験を通して交通ルールを守る大切さを学習している。又、コロナ禍で様々な行事が規模縮小や保護者不参加などの制約を受ける中、様々な行事について、保護者の要望を把握・確認し、家庭と幼稚園の連携を深め、少しでも園児の経験となるよう、取り組んでおられる。
幼稚園と小学校の円滑な接続の必要から、例年は幼小連携は計画的に行っていましたが、本年度も残念ながら、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、様々な行事が中止せざるを得ない状況が続いているが、コロナ禍が落ち着いた令和5年度は、読み聞かせや伝承遊びの交流活動など実施できる活動から再開したいと考えている。
園では未就園児親子教室を定期的に開催することにより、地域幼児教育センターとしての役割を担い地域や保護者からの賛同の声として多く聞かれ、今後も地域も含め保育内容向上に努めてもらいたい。

地域市立小学校　校長先生

※その他３件、別紙「学校関係者評価」参照

７．財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

令和４年度間　学校関係者評価

白 菊 幼 稚 園

・学校関係者の評価

貴園は園長のリーダーシップのもと、高い教育理念・教育目標を掲げ、保育方針を教職員が共通理解することで幼児教育の豊かな実践に取り組んでおられる。
保育内の取り組みとして、体操やサッカー保育を取り入れ、運動する機会を増やし体力面の向上に加え園児間の協調性を養う姿勢にも繋がっている。また、健康面では歯科衛生士による歯磨き教室や、安全面では所轄警察による交通安全教室も行っている。その他の様々な行事についても、保護者の要望等を丁寧に聞き取り、家庭と幼稚園の連携を深めて、保育内容の創意工夫に取り組んでいる。
小学校との連携については、交流事業を通して人に思いやる気持ちや優しい関わり方という社会性の育成や、幼稚園と小学校の円滑な接続を計画的に継続して行っている。
中学校との連携については、保育実習を通して、中学生と幼児と接する機会を設けて、なかなか経験できない幼児教育の経験を積むことができると期待します。
昨年度まで、コロナウイルス感染予防の観点から、実施することが出来なかったり、延期したりしていた行事がほぼできるようになってきており、様々な行事が情操教育に役立っている。
また。未就園児親子教室（ケイキクラブ）を定期的に開催することにより、保護者・地域と関わり、外部機関と連携も保ち地域幼児教育センターとしての役割も果たしている。

地域市立中学校　校長先生

白菊幼稚園では未就園児親子教室（ケイキクラブ）を定期的に開催し、地域の未就園児の親子を対象にした保育や遊びを行い、幼児教育や保護者の交流、育児相談等、「幼稚園」という教育施設の在り方を知ってもらったと考えています。
又、幼稚園が教育施設に加え、地域の幼児教育センターとしての役割を果たすように努めている。
園は、子ども子育て新制度幼稚園（施設型給付幼稚園）への移行を踏まえ、保護者、教職員への制度説明を行い、スムーズに移行、運営できるように努めていると思われます。

当学校法人　評議員

今年度も、コロナウイルス感染防止対策で様々な制約を受けながら、このコロナ禍の中でも園の教育方針や目標に沿って、出来る範囲内において創意工夫し地道に準備し、実践されいるように見られます。
通常保育の他に、園児たに交通ルールを守る大切や、命の大切さ等を学ぶための交通安全教室を通じて指導する機会を設けていることは評価できる。
教職員の皆さんは、日々の研究や研修会に参加し常に幼児保育の技術向上に努めていると感じる。

地区民生児童委員協議会委員長